

★ _____ ★
☆☆★ いわて マナビィ マガジン ★☆☆
☆☆ No.115 2016. 7. 8. ★☆☆

★ _____ ★
***** I N D E X *****

1. センター便り 『読書推進の一翼を担う』
2. 教振なう！ 『教育振興運動推進研修会レポート（後編）』
3. 編集後記 ～ピエロが行く！～

★ _____ ★
1. センター便り 『読書推進の一翼を担う』

★ _____ ★

平成 15 年度 8.9 冊であった本県小学 5 年生の 1 か月間の平均読書冊数は、平成 27 年度には 14.3 冊まで向上しました。中学 2 年生の同平均読書冊数も、平成 15 年度は 2.4 冊であったところ平成 27 年度には 4.1 冊にまで伸びています。（岩手県子どもの読書状況調査／県教委）

子どもの読書活動の推進の一翼を担っているのが読書ボランティアの皆様であり、平成 24 年度県立図書館調べによると県内には 163 団体 1,476 名の皆様が活躍し、現在は更に増えていると思われます。

読書ボランティア研修会は、平成 16 年 3 月策定の『岩手県子どもの読書活動推進計画』を契機に県内各地で盛んに行われるようになり、当センター主催研修会の参加者数も、平成 19 年度は 143 名であったものが平成 27 年度は 351 名にまで増加しています。

7 月 6 日（水）、絵本作家いせひでこ氏を迎え、今年度 1 回目の読書ボランティア研修会を行いました。奥州市からは「市内全中学校で読み聞かせをおこなっている実践」が、また花巻市の読書ボランティア団体からは「39 年の長きにわたる読書ボランティアの取組」が報告されました。291 名の参加者も満足されたことと思います。2 回目の研修会は、9 月 7 日（水）に三陸公民館（大船渡市）を会場に行います。是非、多くの皆様に参加いただきたいと思います

研修会においては、『岩手県子どもの読書活動推進計画』第 3 次計画に明記されている本県の読書推進上の課題である「読書ボランティア・教員・公立図書館等がそれぞれの領域で取組を完結させることなく、ネットワークを拡充する必要があること」や「年齢が上がるにつれて読書者の割合が減少すること」などの解決にあたるような内容を考えていきたいと考えております。

★ _____ ★
2. 教振なう！ 『“情報メディア”に係る講師対応について』

★ _____ ★

(振ちゃん) 皆さん、こんにちは。前回、出番がなかった現地レポーターの振ちゃんです。今回は教育振興運動推進研修会の後半3会場について報告します。

(教ちゃん) 113号の「教振レポート」の続きね。

(振ちゃん) 6月10日(金)に盛岡管内で、28日(火)に中部管内で、29日(水)に宮古管内で教育振興運動推進研修会が行われました。

(教ちゃん) うん、うん。それで？

(振ちゃん) 盛岡管内では、宮城県大河原町教育委員会から、子どもたち自身にしっかり考えさせ、PTAが支援し、町全体の取組としていった「情報メディア」に関する事例が紹介されました。その後、千葉大学の藤川先生から携帯・スマホのルール作りについての講演が行われました。

(教ちゃん) 事例から具体的な取組を学んだのね。

(振ちゃん) 中部管内は、昨年度盛岡管内・宮古管内で、今年度県南管内・沿岸南部管内で講演をしていただいた玉川大学大学院の近藤先生の「情報メディア」に関する講演でした。

(教ちゃん) 近藤先生、すご〜い！あとは県北管内でお話しすれば岩手県スタンプラリーの完全制覇ね。

(振ちゃん) また、中部管内では管内すべての市町から実践発表が行われ、互いに学び合うところも素晴らしいと思いました。

(教ちゃん) そうね。それで、最後に行われた宮古管内の教育振興運動推進研修会はどうだったの？

(振ちゃん) うん。宮古管内はね、大阪市立大空小学校初代校長先生の木村泰子さんの講演で、学校と地域の協働による学校づくりについてのお話でした。

(教ちゃん) へ〜。他の管内とちょっと違うのね。

(振ちゃん) 学校は木、地域は土、教職員は風という役割分担で、“みんなで育てるみんなが育つみんなの学校”を作っていく、大風呂敷で子どもたちを包んでいこうという内容で、それは“5者の役割と責任で子どもの課題解決に取り組むことを通して大人が育ち、地域が変わる”教育振興運動の原点に通じるお話だなと感じたところです。

(教ちゃん) 3会場、どちらも充実した研修会だったようですね。

(振ちゃん) はい。今日は、ぼくもいっぱい話して充実しています。

(教ちゃん) 以上で、振ちゃんの「教振レポート」を終わります。

★ _____ ★
3. 編集後記 ～ピエロが行く！～

★ _____ ★
「チーム社教」・・・それは、県教育委員会の社会教育主事が市町村教育委員会生涯学習・社会教育関係職員及び首長部局地域づくり職員の職務推進上の悩みに寄り添い、取り組んでいこうというものです。

つまり、県の社会教育主事が社会教育の専門職として、市町村の事業をより良いものにしていくために企画段階から一緒に考えたり、様々な提案させていただいたりするもので、その継続的な取組過程を通して社会教育主事ではない市町村職員の皆さんも社会教育職員として自信を持てるようになっていただければ・・・というものです。

平成18年4月、私が田野畑村教育委員会の派遣社会教育主事として着任した歓迎会でのこと。村内の校長先生に「ご指導、よろしく願います」とご挨拶に回ったところ、「指導してもらうのはこちらのほうだ」と一喝されました。「校長は学校教育の専門職であり、社会教育に関する指導は社会教育の専門職として着任したあなたの仕事である」と叱責されたのでした。

着任して数日での出来事でしたが、「社会教育主事として着任したその日から専門職としての言動が求められる」という当たり前のことを、厳しさをもって教えてくださったのです。私の社会教育主事としての原点がそこにあります。社会教育の現場の最前線で尽力されている市町村職員の皆さんとともに活動することは、社会教育の基本に立ち返ることでもあり、県と市町村が一体化した「オール社教」として本県の社会教育を盛り上げていきたいものです。



このメールマガジンは、県内小中学校、社会教育関係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ E-mail ; atu-satou@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口2-82-13）

編集：佐藤敦士